

第11回倫理委員会 令和 4年 2月 3日(木)

申請者		薬剤師	松本拓真
受付番号	0347	オピオイド鎮痛薬使用患者におけるナルデメジン開始時期と下痢の発現に関する後方視的検討	
研究の概要		ナルデジメンはオピオイド誘発性便秘を改善するが、副作用として下痢が知られている。下痢を予防するためナルデジメンの早期導入が望ましいとの報告がいくつかあるが、オピオイド鎮痛薬開始と同時にナルデメジンを導入した報告は少ない。そこで今回、同時導入した際の下痢の発現状況について、調査・検討を行った。	
判定	承認	全員一致で承認した	

申請者		薬剤師	西本凜
受付番号	0349	緩和ケア病棟入棟患者におけるPaPスコアを用いた予後予測を行うことの有効性の検証	
研究の概要		終末期医療において予後予測は患者や家族のQOL向上のために重要であり、様々な予後予測の指標が用いられている。今回PaPスコアを用いて予後予測を行うことの有用性について当院緩和ケア病棟入棟患者を対象に検証を行う。	
判定	承認	全員一致で承認した	

申請者		初期研修医	近藤薫
受付番号	0346	【論文発表等報告】 外科切除後に診断に至った肺放線菌症の2例	
報告の内容		肺放線菌症は画像では肺癌や肺結核等との鑑別を要し、診断に難渋し外科手術に至る症例が多い慢性化膿性肉芽腫性疾患である。診断が確定しても抗菌薬加療に抵抗し外科切除に至る症例もある。今回、外科切除の後に診断に至った肺放線菌症の2例を経験したため、文献的考察を踏まえて報告する。(呼吸器外科学会誌に投稿予定)	
判定	承認	全員一致で承認した	

申請者		薬剤師	河田武志
受付番号	0348	【症例発表等報告】 Clostridioides difficile infection(CDI)治療の標準化における適正使用の取り組み	
報告の内容		CDIは抗菌薬使用における消化管細菌叢の攪乱に伴い発症することが多い。VCM散やMINZ製剤が使用されるが、治療薬の選択・リスク因子はあまり考慮されていない。そのため、ASTの取り組みとして2019年7月よりCDI治療マニュアルを作成し、全症例介入することとしたため、治療状況がどのように変化したか調査した(第69回 日本化学療法学会)(2021年11月5日~7日)	
判定	承認	全員一致で承認した	

申請者		副院長	田中屋宏爾
受付番号	0238 2021年1月7日 承認	【倫理審査承認事項変更】 遺伝性腫瘍関連遺伝子バリエーション保持者と関連腫瘍発症関連因子検討のための前向きコホート研究	
変更事項の内容		研究計画書 : ver.2.0 → ver.2.1 説明文書 : ver.2.0 → ver.2.1	
判定	承認	全員一致で承認した	

【特定臨床研究の実施許可報告】

申請者		診療部長	久山彰一
整理番号	特-2102	【特定臨床研究】 PD-L1発現50%以上の非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペムブロリズマブ単剤とペムブロリズマブ+カルボプラチン+ペトレキセド併用療法のランダム化第3相試験(EBM研究:H31-EBM-02)	
整理番号	特-2103	【特定臨床研究】 胸水合併EGFR遺伝子変異陽性進行再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するエルロチニブ+ラムシルマブの単群第II相試験(RELAY-Effusion)	
申請者		副院長	田中屋宏爾
整理番号	特-2104	【特定臨床研究】 家族性大腸腺腫症患者への低用量アスピリンによる単一介入臨床試験(J-FAPP Study V)	